

長野県埋蔵文化財ニュース

No.38

1993.9.30

(財)長野県埋蔵文化財センター

〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4

TEL 0262-93-5926



← 一面に遺物が分布しているが、環状ブロックの状態がよくわかる。現在まで直径4m前後のブロックが7ヶ所あり、直径約25mの環状をなしている。手前の方形掘り込みはテストピットのあと。

→ 蛇紋岩製の磨製石斧7ヶの一括出土状態。最小4cm、最大19cm。形態も製作も比較的变化がある。磨製石斧がこうして40ヶも一遺跡から出土した例は全国的にも珍しい。今後まだ出土数は増加する見込みである。



磨製石斧(旧石器時代)40点が出土

ひなたばやし
—長野県上水内郡信濃町日向林B遺跡—

野尻湖周辺は旧石器時代遺跡の濃密な分布地域として知られている。その1つである本遺跡から環状ブロックが良好な状態で検出され、かつ磨製石斧が多量に出土して注目を集めている。

現在までのところ未調査部分はあるが、直径4m前後のブロック7ヶ所が直径約25mの環状をなしており、その中央部に大きなブロックが存在するらしい。出土している約4,300点の遺物の大半は剥片であるが、台形石器・敲石などの石器も少数ある。石材の約7割は

黒曜石、2割が玉髄、残りが安山岩・蛇紋岩である。

特筆すべきは石斧40点・砥石3点の出土である。これらはブロック中に単独または3～7点集中しており、現在も新たな検出が続いている。石斧は蛇紋岩製で、局部磨製がある例とないもの、最小4～最大19cm、形態・大小に多様性がある。これらは上部野尻ロームI層最上部(黒色帯)にあり、AT降灰以前の後期旧石器時代初期に位置づけられる。局部磨製石斧と台形石器を特徴とするが、近年県下でも類例が増えている。

埋文センターが創立10周年を迎える前の数年間は、毎年厳しい条件のもとでの調査を余儀なくされることが多く、「今年もまた、埋文センターは正念場に立たされている」と同じような挨拶を繰り返さなければならなかったことを思い出す。

年間に20万平方メートルを掘ってくれ、いや現体制では15万平方メートルが精一杯だ。それでも、限りなく20万平方メートルに近づくように、県教委・埋文ともに努力を、

という理事長である教育長の裁断で、苦しいスタートを切った年があったことが昨日のように思い出される。

これがきっかけで、県教委は調査体制の整備・改善につとめることになる。引き続き学校からたくさんの先生が派遣される一方で、3年間に18名の専門職員が新規に採用され派遣された結果、総勢88名の調査研究

員とこれを支える行政(事務)職員10数名のスタッフが揃った。そしてそれにふさわしい年間計画が県教委(第一受託者で再委託者)から埋文センター(再受託者)に示されるようになった事が幸いである。

県民待望の長野冬期オリンピックを成功させるために欠かせない社会資本の整備、埋蔵文化財の調査を必

新年度発足にあたって

副理事長 伊藤 万寿雄

要とするものが少なくない。いまわれわれが担当している調査は、すべてこれに属しているといっ

いい。間に合わなければ何にもならない。そういう中で、慎重に計画された平成5年度の事業計画であると考えている。機構は分散(4調査事務所に)しているが、機能を集中して総合力を発揮し、年度計画を成しとげたい、そしてその上でそれを翌年度以降につなげていきたいと思う。

文化課より

平成5年度埋蔵文化財保護事業について

長野県教育委員会

平成4年度、県内で行なわれた発掘調査は265件であった。ここ数年、高速道路・新幹線の建設、これに関連する事業、長野冬季オリンピック関連の事業、圃場整備等農業基盤整備事業、国道・県道等の建設に先だつ発掘調査が増加し、学問的にも多くの新しい発見があり、長野県の歴史を解明する数々の新知見が得られた。これらの発掘調査に携わる担当者は、(財)県埋文センターに88名、120市町村のうち42市町村(木曾町村会を含む)に120名の職員が配置されている。

平成5年度、(財)県埋文センターが実施している事業は、上信越自動車道、北陸新幹線の建設に係わる軽井沢町から信濃町にかけての13市町村、54遺跡、調査表面積約29万㎡という膨大な発掘調査と、長野・上信越自動車道に係わる遺跡の整理作業(5遺跡)、報告書刊行作業(13遺跡)が主体である。

例年、国、県、市町村の開発部局に次年度の開発事業計画を照会し、これらの開発事業と埋蔵文化財包蔵地の保護について事前に協議を実施しているが、本年度、関係機関から平成6年度の事業計画として回答があったのは、1,500件を超えた。これは今までになく多い件数である。9月、10月の2ヶ月間をこの保護協議にあてている。

現在の埋蔵文化財保護をめぐる課題は、全県に係わるものとして、体制が充分整備されていない市町村の埋蔵文化財の保護、個人住宅の建築など小規模な開発と埋蔵文化財の保護、国・県・市町村指定の史跡の保存・整備・活用、遺跡分布地図等の整備といった課題

などである。

県では、(財)県埋文センターと共催で、市町村教育委員会の埋蔵文化財発掘調査担当職員等を対象に、発掘調査等の技術向上を図る目的で、技術研修会を実施しているが、市町村の発掘調査体制の整備はまだまだ充分とはいえない。個人住宅の建築については、国庫補助制度の活用ができるようになっているが、活用している市町村は少ない。史跡の整備では、森將軍塚古墳の整備が昨年完了し脚光をあびているが、整備の行なわれている史跡は少ない。本年度、尖石遺跡、井戸尻遺跡、高梨氏城跡、松代城跡、上田城跡などの整備事業が計画されている。遺跡分布地図等の整備については、本年度の重点事業として、市町村教育委員会の協力を得て実施している。

全国的な視野に立った大きな課題としては、ハヶ岳西南麓の縄文時代遺跡群を大規模に行われている圃場整備事業などの開発事業とどのように調整し、保護していくか、和田峠、霧ヶ峰を中心とする日本を代表する黒曜石原産地遺跡群の詳細分布調査の実施と保護、活用、高速道路の建設とともに種々の開発が急増している野尻湖周辺の旧石器時代遺跡群の保護、国営アルプスあづみの公園、天竜川治水対策事業、三遠南信自動車道の建設など大規模開発と埋蔵文化財の保護との調整、懸案となっている矢出川遺跡の史跡指定、恒川遺跡群、中越遺跡の保存、活用などである。

県民、関係機関の協力を得て、これらの課題の解決に努めたい。

埋文センターだより

ピークを迎えた平成5年事業概要

埋文センター調査部長 小林 秀夫

センター発足12年目の本年度は、別図のようにすべての面で事業規模は最大量となった。受託内容も多岐にわたるので、詳細は中間報告もかねた4～5頁の4調査事務所報告にゆずり、大要のみとする。

1 組織体制等関係

長野市篠ノ井にある事務局と長野調査事務所のほか佐久・上田・中野3事務所の4所体制は昨年同様だが、職員数は102人と大台をこえた。

2 調査研究事業関係

(1)発掘調査 54遺跡 492,200㎡(延面積)

上信越自動車道関係 佐久市2遺跡など計35遺跡

北陸新幹線関係 軽井沢町2遺跡など計19遺跡

(2)整理作業(報告書刊行含む)

長野自動車道関係 坂北村など計15遺跡

上信越自動車道関係 長野市3遺跡

長野県土木部・道路公社関係 中野市2、美麻村1
計3遺跡

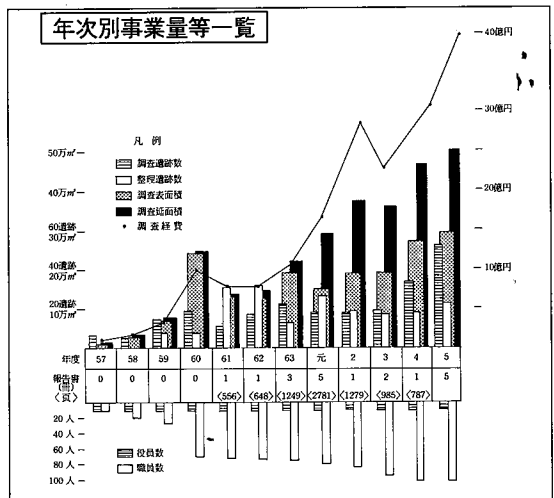
このうち長野自動車道関係13遺跡で計3冊、長野県土木部等関係で3遺跡2冊の合計5冊の報告書刊行。

(3)埋蔵文化財保護思想の普及・啓蒙を図るため、現地説明会、展示会、埋文ニュース・年報・紀要の発行等の事業を実施する。なおセンター発足10周年を記念した論文集も発刊準備中である。

3 予算関係

前年当初比ではやや減るものの、現額比では25%上回る約39億円となる。

以上のように、本年度は発掘や試掘調査はもちろん整理作業や報告書発刊など、年度当初からフル回転である。しかしすでに半年を過ぎようとしている現状から考えると例えば、更埴屋代遺跡での地下5～6mから縄文中期集落の検出(更に下にも包含層がある可能性が生じている)、信濃町野尻湖周辺での旧石器時代遺跡の続出、今後興味ある結果が期待できそうな坂城町東平古墳など、調査面積や期間を大幅に延長せざるをえない遺跡がある一方、予定期間以内に縮小した遺跡もあるなど、4月開始時点とは相当の異なる状況も生じてきている。いづれにしろ、種々の課題をかかえた例年と同じ事業内容であるが、4事務所が総力をあげて後半戦に向っているのが現状である。



埋文センター人事移動(4.11より)

(「調査事務所」は省略)

・新任(4.11.1付)

上田：庶務課長越清登(長野地方事務所)

・退任(5.3.31付)

長野：事務職員安藤唯幸、調査員宮入英治・下平博行

佐久：調査員興水太伸

・転任(5.3.31付)

事務局：総務部長補佐山崎今朝寛(消防防災課)、主査青島重子(川中島水道管理事務所)

長野：調査研究員伊藤克己(昭和小)・藤沢袈裟一(裾花中)・中村寛(五加小教頭)・夏目大助(須坂東高)・黒岩隆(中野実高)・本田眞(中野高)・平林彰(文化課県立歴史館〈假稱〉)

中野：調査研究員越修一(栗ヶ丘小)・中村敏生(若槻養護)

・新任(5.4.1付)

事務局：総務係長磯野道子(長野建設事務所)、主査堀川正子(若槻養護)、主事下平正彦(飯田工高)

長野：事務職員原田和男、調査研究員依田茂(北佐久農高)

佐久：調査研究員山崎光顕(戸隠小)・山岡一英(飯綱中)・上沼由彦(新採)

中野：調査研究員前田利彦(富士里小)・山本浩(仁礼小)・久保田秀一郎(屋代南高)

上田：調査研究員豊田義幸(三輪小)・井口章(東春近小)

・内部移動(5.4.1付)

事務局：総務部長補佐羽入田博行(総務係長)

長野：調査研究員奥原聡(中野)

中野：〃〃 常長虎徹・酒井健次・谷和隆(長野)

上田：〃〃 松岡忠一郎(長野)

中野・上田 調査事務所の調査状況 佐久・長野

中野

☆今年度は上信越自動車道関係で中野市・豊田村・信濃町の8遺跡の発掘調査、昨年終了した中野志賀有料道路関係の中野市栗林・七瀬2遺跡の整理・報告書刊行の二本立で出発した。以下概要を報告したい。

・中野市牛出古窯跡の第1次分の調査は7月2日に終了。奈良末の窯跡1・堅穴住居跡2、3世紀後半の堅穴住居跡8、中世火葬墓などを調査した。窯跡出土須恵器の中に「犬」などの刻字がある。3世紀の集落は、ほぼ一時期の集落と考えられ、外来系の土器が多い。また、勾玉などの玉類もかなり出土した。一昨年からの中野市内での窯跡の調査は、計14基を調査し終了した。第二次調査は10月末からの予定である。

・信濃町の野尻湖周辺部での旧石器時代を中心とする調査が本格化している(写真)。日向林B遺跡については別項のように大きな成果をあげている。

・東裏遺跡では、剝片尖頭器を出土したが、他に局部磨製石斧・ナイフ型石器・神子柴型石斧・細石刃などもある。この出土状態は二次的な堆積土中からと考えられているが今後も検討が必要である。

佐久

☆今年度は、上信越道関係8遺跡・新幹線関係12遺跡を対象に調査を開始し、小諸市岩下・中原・野火附、佐久市唄坂・中金井・栗毛坂・下蟹沢・前田、浅科村土合の各遺跡は既に調査が終了した。現在調査中の遺跡は佐久市芝宮と小諸市郷土の2遺跡で、小諸市宮ノ反Aと浅科村砂原・中平田中島は調査準備中である。

・これまでの主な調査成果を紹介すると、郷土遺跡は今年度新たに縄文時代前期(中道式期)の住居跡4軒と中期後葉(加曽利E式期)の住居跡24軒を調査し、昨年度分も合わせると最終的には100軒を超える縄文時代中期後葉を中心とした大規模集落となる見込みである。個々の遺構で見ても、直径約8mの大形な24号住居跡においては、出入口部に底部を切断した埋甕が逆位の状態で石蓋を伴って出土。炉は一辺が約1.1mの石囲炉で中央やや北寄りに位置し、縁辺には4個の石棒(1つは加工したもの、残りの3個は自然石を利用したもの)が直立していた。この炉の北側には奥壁に沿って大形鉢(最大径約80cmのγ把手付鉢)があり、その周囲には底部を切断した伏甕(曽利系・加曽利系・大木系?など)が6個配置され、さらにその外側にはあだかも左右対称になるように丸石が1個ずつ置かれてい

・貫ノ木遺跡は7月から開始したが、ナイフ形石器が出土しており、今後範囲が広がる可能性がある。

・縄文時代では、6月18日終了した七ツ栗遺跡で押型文土器・集石炉など早～前期の好資料が多く出土した。押型文土器は東裏・貫ノ木に、表裏縄文土器は日向林Bの今後の調査予定地で出土している。遺物に較べて該期の遺構はほとんど確認されていない。

・普光田遺跡の調査は、遺構・遺物がほとんど出土せず、7月2日に終了した。

・なお、報告書刊行作業も順調に進行中である。



東裏(上)・日向林B(下)遺跡と野尻湖妙高山



郷土遺跡24号住居跡。石囲炉と奥の祭祀的遺物群

た。少なくとも、住居廃棄直前には何らかの祭祀空間であったことは確かであろう。このように24号住居跡の施設や遺物出土状況は屋内祭祀のあり方を探る好資料といえよう(写真)。

・中原遺跡群は古墳時代後期から平安時代前半にかけての継続集落で、合計140軒の住居跡と90棟の建物跡を調査し、このうち古墳時代後期の住居跡からは円錐形の鉄鐸(6頁参照)が出土した。鉄鐸は県内では中南信に出土例が多く、ほとんど円筒形で平安時代後半の所産であるが、中原例は東北信における初見であり県内最古例といえる。今後、宗教的な側面からも調査結果を検討することとしたい。

☆4月初から開始した今年度の調査は8月末までに東部町4遺跡・上田市4遺跡・坂城町2遺跡の10遺跡で終了または継続中である。いずれも上信越自動車道関係の調査である。

・東部町：大星合遺跡・東原地遺跡は、若干の遺物が出土したのみで調査は終了した。

・山の越遺跡は、烏帽子岳南麓の扇状地上に立地する縄文・平安・中世にわたる複合遺跡である。縄文時代の遺構は前期から後期にかけての住居跡・土坑である。中世の関係では竪穴式建物跡(写真)と土坑がある。竪



山の越遺跡の中世竪穴式建物跡



屋代遺跡群の縄文中期集落

☆本所では、上信越自動車道及び北陸新幹線関係の発掘調査、また長野と上信越両自動車道及びオリンピック道路白馬ルート関係の整理・報告書作成を実施している。以下簡単に現在までの状況を報告したい。

・大穴遺跡(上信越道・更埴市) 崖錐地形上にある弥生中期後半の集落、7世紀後半の円墳6基と祭祀跡1ヶ所を調査した。松原遺跡(長野市)や清水製鉄遺跡でもよく似た円墳を調査しており、長野盆地の地域色が一段と明らかになってきた。

・更埴条里遺跡(上信越道・更埴市) 3年計画の最終年度で残った二区画を調査、条里水田とそれを覆う洪水砂の土に成立した古代末の集落を検出する。土地利

穴式建物跡は3m四方形の方形で、壁面に石を張りつける様に積んでいるものもある。土内耳土器・宋銭・鉄製品などが少量出土している。土坑は長方形と不整形の二者があり、焼土・炭がブロック状に混じる。

・上田市：大日ノ木遺跡では、弥生時代後期・古墳時代前期・奈良・平安時代の住居跡が10軒検出され、縄文時代晩期後半の遺物等も出土した。

・陣馬塚古墳は、丘陵の先端部に構築された直径8m程の円墳である。埋葬施設は横穴式石室で、天井石ははずされて残存していない。玄室は、奥行き3.8m、幅は奥壁際で1.6mを測り、床には礫が敷き詰められている。埋葬遺体については3個の頭骨を確認した。出土遺物は、土器類では平瓶・長頸壺が各1個体出土した。装身具では耳環7個、管玉・勾玉・切子玉などが少量ある。武器では直刀6・短刀4の他に鉄鏃が多数検出されている。石室形態や出土遺物などから7世紀前半頃の古墳と考えられる。

・染谷台条里では現水田面の下部より水田土壌を確認したが畦畔や水路等は検出されなかった。

これ以外の遺跡は現在も調査中であり、今後の進展を待って報告したい。

用の変遷に好資料を追加。銅製私印の出土も注目されよう。

長野

・屋代遺跡群(同上、北陸新幹線) こここも3年来の調査。後背地側からは古墳～平安時代の水田や洪水砂後の小集落を発見し、近くの兩宮廃寺と同タイプの軒丸瓦も出土する。一方、自然堤防は古墳時代～中世までの密集する集落となり、更にその下層、地表下4mから縄文中期後半の集落が発見され話題をよんだ(写真)。柄鏡形敷石住居や礎礎をもつ住居など竪穴住居は50軒をこえ、掘立建物も数棟、その他屋外埋甕群、地表の焼土群、土墳墓群などに加え、イノシシの頭骨を大量に残す住居や壁材の残る住居、特異な炉跡などこれまでにない好資料が得られ、該期研究に新視点を提供した。現在更に下層で縄文中期初頭ころの包含層が一部検出中である。

・北陸新幹線関係も開始され、古代の洪水砂に埋まった水田域と集落域を区画する土手、水田と用水路・水口が良好な状態で発見された。調査範囲は狭いが極めて貴重な資料といえる。

・整理作業関係では、坂北村など筑北地区の報告書が印刷中、残る予定の2冊も編集集中である。また、石川条里・篠ノ井・松原・榎田(以上長野市)各遺跡の整理作業も鋭意進行中である。



←
屋代遺跡群縄文中期集落跡の現地説明会。
写真右上で説明する係員から遺構までの
深さがわかる。一面の石は中期末～後期
初頭の敷石住居で、現在更に下層から中
期初頭期の遺構が発見されている。

牛出古窯跡群の現地説明会。遠くみえる
尾根状台地の斜面が奈良時代末の古窯跡。
手前平坦面に同時代住居跡や3世紀代後
半の竪穴住居跡・中世火葬墓が分布して
いる。近隣に多い古窯跡群研究に新しい
ページを開く調査となろう。



カマドや家の跡って
こんなにっているんだ!!



↑佐久地方初の「鉄鐸」一県内最古例か？—

小諸市中原遺跡群の古墳時代後期住居跡から出土。
高さ7cm弱の体部は円錐形で、3cm弱の舌(右)もある。
現在まで県内では茅野市御狩野を除くとすべて松本平
の5ヶ所の遺跡(塩尻市吉田川西、松本市くまのかわ・
県町・小原・針塚)から出土している。みな平安時代
中頃以降で形態的には円筒形が多いが、今回は形も時
期も異なり、謎につつまれた鉄鐸研究に新知見を加え
た資料として話題をよぶことであろう。

信州埋文アラカルト—いま県内では

- ▲鷹山遺跡群で黒曜石採掘跡。明大調査団と長門町による今年度調査で百近い縄文後期の採掘跡が発見された。旧石器時代遺跡もあり、今後更に拡大する模様。
- ▲由井茂也氏に「第2回相澤忠洋賞」。9月15日群馬県の相澤忠洋記念館で受賞式。昨年の地域文化功労者(文部省)表彰と今年6月の米寿と『草原の狩人』出版を兼ねた祝賀会など益々の御活躍を。
- ▲「たたき目」の埴輪出土。上水内郡牟礼村庚申塚古墳の発掘調査で約50点発見。県下では2例目。
- ▲未盗掘の前方後円墳「和田東山古墳群第三号墳」(長野市)の調査終る。明大小林三郎教授による調査で内行花文鏡1、太刀1、鉄剣4、やりがんななど工具56点、玉類28点などが出土。県下古墳研究に新知見。
- ▲縄文草創期の集落。木曽郡上松町お宮の森遺跡から表裏縄文土器を主とした竪穴住居跡9軒が馬蹄形状に発見される。縄文集落の研究も次第に古く遡っていく。